

まごころだより

2019. 11月号

幼い子達がまごころに来てくれるようになってから7か月ほど経ちました。当初、親御さんは“まごころ”がどんなところなのか、子供が違った環境に慣れてくれるのか心配で仕方がなかったと思います。かと言って生活を続けて行くには子供にある程度、負担をかけなくてはいけない辛い決断が必要だったと思います。昔は妻が家事と子育てを一手に引き受けるのが多かったが、今では共働きが普通になった時代です。それに伴い子供達の過ごし方も変化していきました。託児所や保育園が終わればお母さんに会える。当然そうなのだと思っていたが実際は別の場所に連れて行



かれ、何時になったらお家に帰れるのか分からないのが不安だったが、繰り返し行く事で幼子なりに我慢しなければならないのだと理解しているのかなと思います。親御さんにしても子どもには悪いけれど我慢してと涙をのんで預けているのではないのでしょうか。しかし、親たちの心配をよそに子ども達はどんどん慣れていきます。その適応力には驚かされます。富山型デイサービスの特徴は高齢者も障がい者も子供も同じ所で共に過ごせる場所を提供しています。他人同士が同じ場所、同じ時間の中で過ごしますが、高齢者はその子達を孫、ひ孫のように慈しみ、その表情は優しく、明るく、とても良い刺激を受けているように見受けられます。

そんな子達を親御さんに送り届ける時には必ずその日の様子をお知らせすることにしてしています。様子をお知らせすることで少しでも安心につながれば信頼をきずいていけるのではないかとおもっています。

親の育児課程には多くの苦勞があり突然の病気やケガの心配もありますが小学校に上がる時の心配もあります。小学生になると保育園とは違い、下校時間が早くなり一人で過ごす時間が増え危険に巻き込まれる可能性があります。宿題やおや



つ等も自分ですることになります。まだしっかりとしていない1年生から3年生までは学童保育を利用できますがそれでも6時頃までで、親にしてみれば必然的に勤務時間の変更がもとめられることになります。他にも帰宅後は学校で必要な準備をするのに結構な時間がもとめられます。それより大変なのは夏休み等の長期休み期間の昼のお弁当作りや、学校行事の参加など親には多く負担が増え心配が絶えません。いわゆる「小1の壁」と言われている親と子の生活環境の変化の状況です。

かつて子供たちは放課後に家庭や地域において、

家事や自然体験を通して生活習慣、他人に対する思いやりや、自立、自制、社会的なマナーなどを身につけていく事ができたのではないかと思います。このように幼い子の育成上とても大切な時期で、そこは私たち大人が考えてやらなければならないと思うのです。

いま“まごころ“に来てくれている子ども達もいずれはこのような問題に直面することになるのではないのでしょうか。決して、すべての困難を解決できるとは思っていませんが、小さな頃から慣れ親しんだ環境で、いろんな大人たちに関わる事で、自立心、自制心、ルールやマナーなどを学んでくれるとしたら、私たちはできる限り協力していき信頼を得られるようにしていきたいと思っています。この思いは子ども達に限ったことではありません。富山型デイサービスまごころをご利用頂いているすべての方達に対しても同じ思いでいます。



11月行事の予定

6日 (水)
8日 (金)
12日 (火)
14日 (木)
20日 (水)
22日 (金)
26日 (火)
28日 (木)

小物づくり
惣菜またはお菓子作り
林夫妻の歌謡ショー
民謡と踊り
三味線・踊り
前畑さんの演奏で歌いましょう
優しい音色のオカリナ演奏
食事会